

やまなし自然首都圏構想研究会第4回自然首都圏構想推進部会概要

1. 日時

令和3年3月29日（月）10:30～12:00

2. 場所

山梨県庁防災新館401会議室（テレビ会議システム）

3. 出席者

（顧問）田坂広志

（座長）東博暢

（委員）清水喜彦、中村成志、藤沢久美、野村明弘、山崎豪敏 ※五十音順、敬称略

（ 県 ）長崎幸太郎知事

4. 主な意見

[議事『やまなし二拠点居住推進戦略の作成について』]

- ・ シンボリックな場所に様々な政策を重ね合わせたような流れを作ったほうが良い
- ・ バランス良く、目配りのきいた細やかな政策が準備されているが、これらを生かすためには、世の中の「アテンション」を集めるための「メディア戦略」が必要
- ・ エリアとターゲットを早く決めて、具体的に行動を起こし、それをアピールすべき

[議事『やまなし観光MaaSの整備について』]

- ・ MaaS利用後に、いかにその存在を思い出させるかが大事
- ・ 「ワクワク感」の創出や、外国語対応等の視点も必要
- ・ どのようなデータを取り、どのように生かすのかを十分検討し、県においてデータの蓄積と分析をしっかりと行うべき
- ・ エネルギーとMaaSをセットにすること等により、山梨モデルが形成できるのではないか

[議事『山梨県総合計画の見直しについて』]

- ・ 総合計画の推進にあたり、副業人材の活用を図るのがよいのではないか
- ・ 山梨ならではの特徴を打ち出して、メリハリをつけて推進すべき
- ・ 県庁内でも新しい取り組みを行い、長崎知事の発信力を生かして、それをマスコミ等に強力にアピールするのがよいのではないか
- ・ 若者のケアという視点も重要
- ・ 政策を「戦略のレベル」に落とし込むことが必要であり、その際に「シンボル」を掲げ、「スピード感」を持って、何から着手するかの優先順位を明確にし、したたかな「メディア戦略」を実行することを重視すべき